

# 《日商簿記2級》 —工業簿記—

## 25. 標準原価計算③

～標準原価差異の分析について～



ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiiroha.com>



## 標準原価差異の分析

～標準原価差異の分析について～  
<原価差異の原因分析までの手順を再確認しよう!>

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiirroha.com>



# 標準原価差異の分析

## <標準原価計算の計算手順>

### ①.原価標準の設定

会計年度のはじめに製品1コ当たりの標準原価となる( **原価標準** )を設定する。その際は、直接材料費・直接労務費・製造間接費に分けて記載した( **標準原価カード** )を作成する。

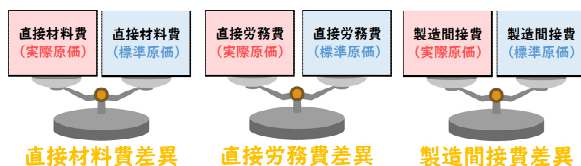
標準原価カード			
標準直接材料費	標準単価 @500円	× 標準消費量 6kg	= 3,000円
標準直接労務費	標準賃率 @800円	× 標準直接作業時間 5h	= 4,000円
標準製造間接費	標準配賦率 @1,000円	× 標準直接作業時間 5h	= 5,000円
製品1コあたりの標準原価			12,000円

### ③.実際原価の計算

当月に実際にかかった直接材料費・直接労務費・製造間接費を集計し、当月製造費用(当月の実際原価)を計算する。

### ④.標準原価差異の計算

当月の標準原価(当月標準製造費用)と当月の実際原価を比較して、標準原価差異(直接材料費差異・直接労務費差異・製造間接費差異)を計算する。



### ○今回のポイント○

標準原価と実際原価の差額で把握された「標準原価差異」は、あくまでも差異の総額であるため、その差異がどこで・どんな影響で発生したかという原因まで明らかにすることができない。そこで、原因別分析を行い、原価管理に役立てるための作業を行う。

### ②.標準原価の計算

標準原価カード(事前に設定した原価標準)をもとに、当月完成品原価、月初仕掛品原価、月末仕掛品原価、当月標準製造費用(当月の標準原価)を計算する。

月初仕掛品	XXXコ (〇〇%)
当月投入	XXXコ
合計	XXXコ
月末仕掛品	XXXコ (〇〇%)
完成品	XXXコ

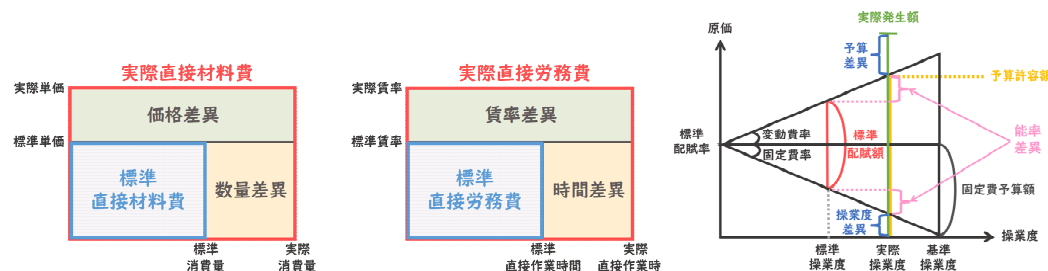
標準原価カード			
標準直接材料費	標準単価 @500円	× 標準消費量 6kg	= 3,000円
標準直接労務費	標準賃率 @800円	× 標準直接作業時間 5h	= 4,000円
標準製造間接費	標準配賦率 @1,000円	× 標準直接作業時間 5h	= 5,000円
製品1コあたりの標準原価			12,000円

直接材料費		加工費	
月初仕掛品原価	当月完成品原価	月初仕掛品原価	当月完成品原価
当月標準製造費用		当月標準製造費用	
	月末仕掛品原価		月末仕掛品原価

### ⑤.標準原価差異の原因分析

標準原価差異をもとに、その原因の分析を行う。

- ・直接材料費差異→価格差異・数量差異
- ・直接労務費差異→賃率差異・時間差異
- ・製造間接費差異→予算差異・操業度差異・能率差異



## 標準原価差異の分析

～直接材料費差異の分析について～  
<価格差異と数量差異の分析方法を確認しよう!>

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiirroha.com>

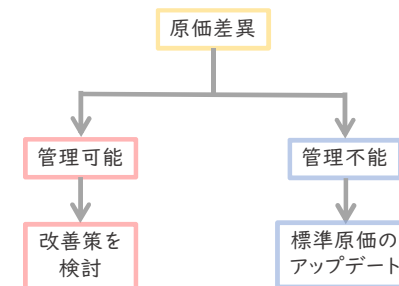


# 標準原価差異の分析

● 価格差異・数量差異の有利・不利の考え方 ●  
 価格差異…標準より、実際が安かったら「有利」  
 標準より、実際が高かったら「不利」  
 数量差異…標準より、実際が少なかったら「有利」  
 標準より、実際が多かったら「不利」

## <直接材料費差異の分析>

・直接材料費の標準原価と実際原価の差額で把握された「直接材料費差異」は、さらに「価格差異」と「数量差異」の2つに分類される。



( ) …材料の標準単価と実際単価の差から把握される差異である。  
 材料の市場価格の変動などが原因(企業の外部要因)で発生するため、  
 製造現場の管理者にとっては( )な差異である。

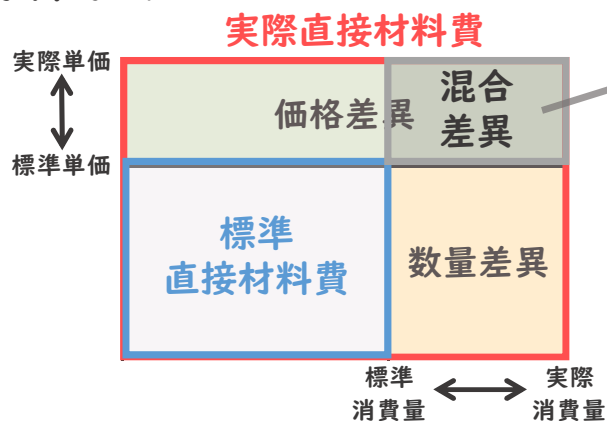


( ) …材料の標準消費量と実際消費量の差から把握される差異である。  
 材料を無駄に使った(効率よく使った)ことなどが原因(企業の内部要因)で  
 発生するため、製造現場の管理者にとっては( )な差異である。



## <直接材料費差異の分析方法>

※差異分析のための  
 ボックス図を使って  
 計算していきます!



<参考>混合差異の取扱いについて  
 価格差異と数量差異の「混合差異」は、原価管理の観点から  
 管理不能な「価格差異」に含めるべきとされている。

$$\text{直接材料費差異} = \text{価格差異} + \text{数量差異}$$

$$\text{価格差異} = (\text{標準単価} - \text{実際単価}) \times \text{実際消費数量}$$

$$\text{数量差異} = \text{標準単価} \times (\text{標準消費量} - \text{実際消費量})$$

## 標準原価差異の分析

～直接労務費差異の分析について～  
<賃率差異と時間差異の分析方法を確認しよう!>

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiirroha.com>



# 標準原価差異の分析

●賃率差異・時間差異の有利・不利の考え方●

賃率差異…標準より、実際が安かったら「有利」  
 標準より、実際が高かったら「不利」  
 時間差異…標準より、実際が短かったら「有利」  
 標準より、実際が長かったら「不利」



## <直接労務費差異の分析>

・直接労務費の標準原価と実際原価の差額で把握された「直接労務費差異」は、さらに「賃率差異」と「時間差異」の2つに分類される。

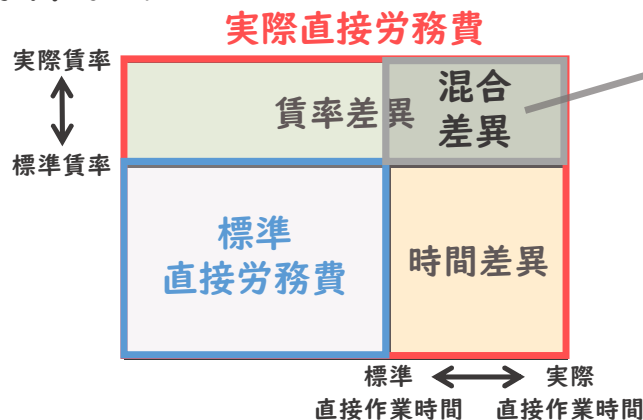
( )…標準賃率と実際賃率の差から把握される差異である。賃上げ交渉による賃率の変動や急なシフト変更で賃率の低い工員から賃率の高い工員へ変更した場合などの原因で発生するため、製造現場の管理者にとっては( )な差異である。



( )…直接工の標準直接作業時間と実際直接作業時間の差から把握される差異である。作業能率の良否などが原因で発生するため、製造現場の管理者にとっては( )な差異である。



## <直接労務費差異の分析方法>



<参考>混合差異の取扱いについて

賃率差異と時間差異の「混合差異」は、材料における「価格差異」と同様に、管理不能な「賃率差異」に含めるべきとされている。

$$\text{直接労務費差異} = \text{賃率差異} + \text{時間差異}$$

$$\text{賃率差異} = (\text{標準賃率} - \text{実際賃率}) \times \text{実際直接作業時間}$$

$$\text{時間差異} = \text{標準賃率} \times (\text{標準直接作業時間} - \text{実際直接作業時間})$$

## 標準原価差異の分析

# ～製造間接費差異の分析について～

<予算差異・操業度差異・能率差異の分析方法を確認しよう!>

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiirroha.com>





# 標準原価差異の分析

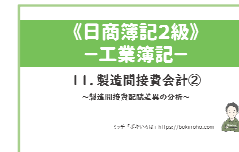
○用語○  
基準操業度…一定期間における操業度の予測値

## <製造間接費差異の分析>

・製造間接費の標準原価と実際原価の差額で把握された「製造間接費差異」は、( )、( )、( )の3つに分類される(この場合、3つに分けるため「3分法」という)。

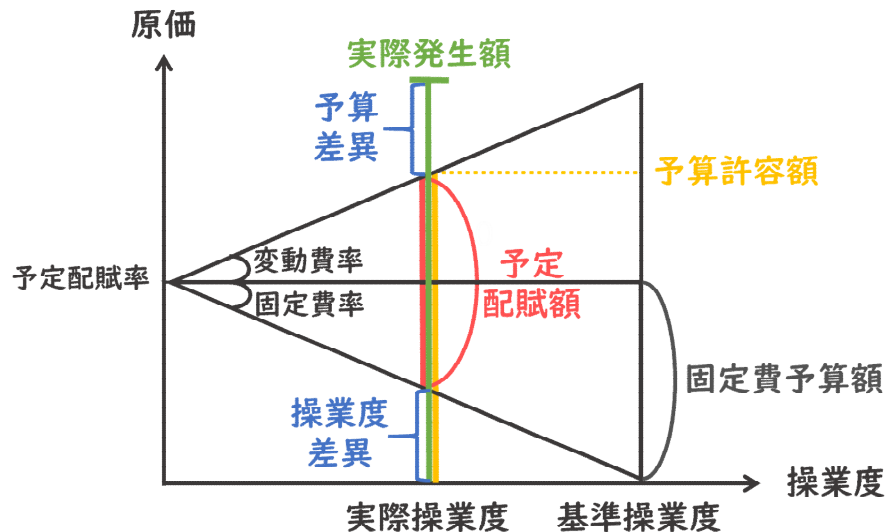
### 【復習(公式法変動予算)】

※「第11回:製造間接費会計②~製造間接費配賦差異の分析~」



( ) 差異…製造間接費が予算どおりに発生したかを把握する差異である。

( ) 差異…生産設備の利用度(操業度)が基準操業度どおりであったかを把握する差異であり、固定費部分から発生する差異である。



$$\text{予算差異} = \text{予算許容額 (実際操業度における予算額)} - \text{実際発生額}$$

$$\text{操業度差異} = (\text{実際操業度} - \text{基準操業度}) \times \text{固定費率}$$

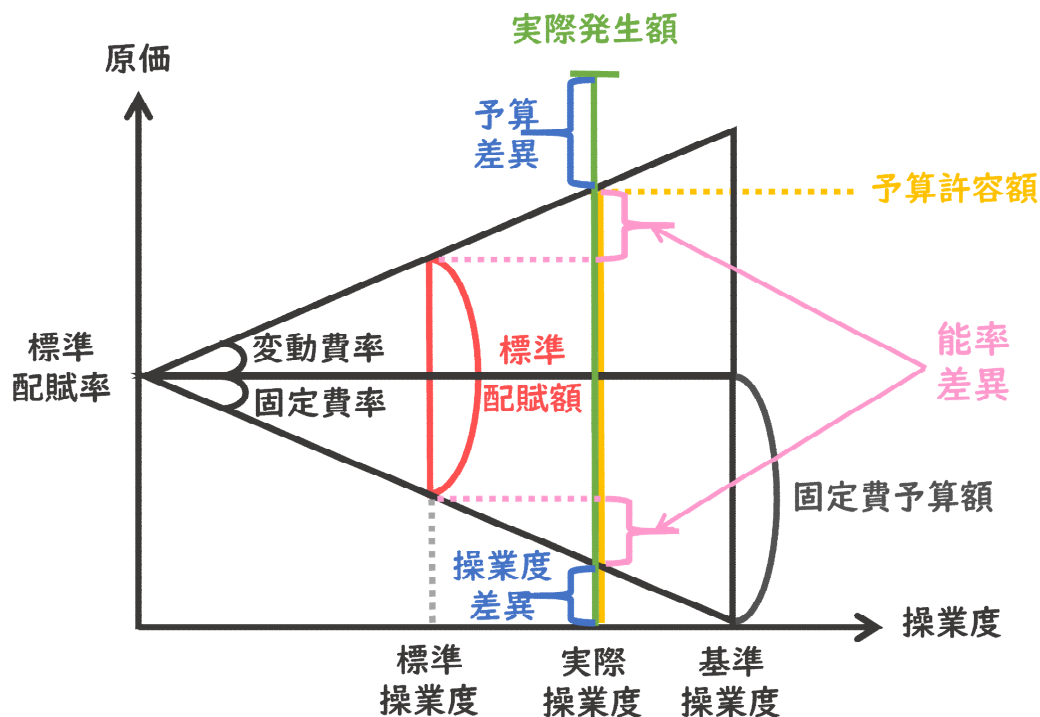
# 標準原価差異の分析

## <能率差異について>

能率差異…標準操業度(目標値)と実際操業度の差から把握される差異である。  
( )の良否が原因で発生する。

標準原価カード		
標準原価	標準消費量	
標準直接材料費	@100円 × 2kg	= 200円
標準直接労務費	@300円 × 1h	= 300円
標準製造間接費	@500円 × 1h	= 500円
製品A1コあたりの標準原価		1,000円

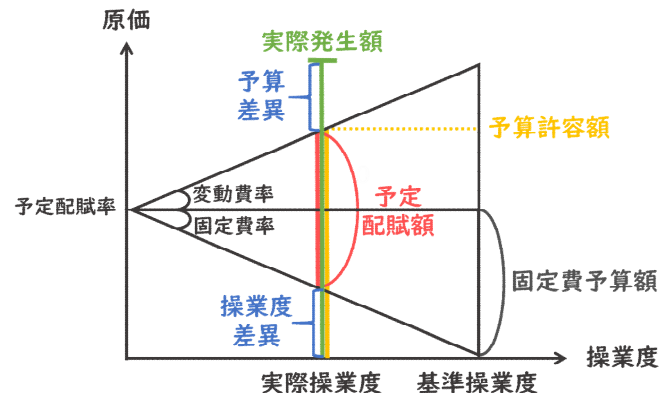
## 《標準原価計算におけるシュラッターの図(公式法変動予算)》



## ●ポイント●

標準原価計算における製造間接費の差異分析でも実際原価計算の時と同様に、「シュラッターの図」を用いて計算を行っていく。

## 《実際原価計算におけるシュラッターの図(公式法変動予算)》



$$\text{予算差異} = \text{予算許容額 (実際操業度における予算額)} - \text{実際発生額}$$

$$\text{操業度差異} = (\text{実際操業度} - \text{基準操業度}) \times \text{固定費率}$$

$$\text{能率差異} = (\text{標準操業度} - \text{実際操業度}) \times \text{標準配賦率}$$

○参考○※あとのスライドでも解説します

なお、能率差異は、変動費部分から生じるもの(変動費能率差異)と固定費部分から生じるもの(固定費能率差異)に分けて把握する場合もある。この場合、「予算差異・操業度差異・変動費能率差異・固定費能率差異」の4つに分けるため「4分法」という。  
ちなみに、製造現場の管理者にとって変動費能率差異は管理可能な差異であり、固定費能率差異は管理不能な差異となる。

# 標準原価差異の分析

## ～問題解説～

<原因別分析を問題で確認しよう!>

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiiroha.com>



# 標準原価差異の分析

## ●ポイント●

直接材料費差異・直接労務費差異の分析は、差異分析のボックスで面積計算、製造間接費差異についてはシュラッターの図で計算すること

### 《問題》

製品Aを製造する当社は、標準原価計算を採用している。次の資料に基づいて、直接材料費差異、直接労務費差異、製造間接費差異の金額を計算し、さらに差異の原因別分析まで行いなさい。なお、製造間接費差異の原因別分析は3分法を採用しており、能率差異の計算は標準配賦率で行っている。

仕掛品 (直接材料費)		仕掛品 (加工費)	
月初仕掛品 100コ 20,000	完成品 400コ 80,000	月初仕掛品 80コ 24,000 40,000	完成品 400コ 120,000 200,000
当月投入 500コ 100,000	月末仕掛品 200コ 40,000	当月投入 420コ 126,000 210,000	月末仕掛品 100コ 30,000 50,000

### 1. 生産データ

<換算量>

月初仕掛品	100コ (80%)	80コ
当月投入	500コ	420コ
合計	600コ	500コ
月末仕掛品	200コ (50%)	100コ
完成品	400コ	400コ

### 3. 実際原価に関するデータ

- ・直接材料費実際発生額: 132,000円 (実際単価@110円×実際消費量1,200kg)
- ・直接労務費実際発生額: 107,500円 (実際賃率@250円×実際直接作業時間430h)
- ・製造間接費実際発生額: 225,000円

### 4. 公式法変動予算に関するデータ

- ・変動費率:@200円
- ・月間固定費予算額:135,000円
- ・月間基準操業度:450h (直接作業時間)

- ・( )内の数値は加工進捗度を示す。
- ・材料は、すべて工程の始点で投入している。

### 2. 製品A1コあたりの標準原価カード

標準原価カード			
標準直接材料費	標準単価 @100円	標準消費量 × 2kg	= 200円
標準直接労務費	標準賃率 @300円	標準直接作業時間 × 1h	= 300円
標準製造間接費	標準配賦率 @500円	標準直接作業時間 × 1h	= 500円
製品A1コあたりの標準原価			<u>1,000円</u>

【解答】 ※[ ]には、借方差異の場合は借、貸方差異の場合は貸と記入すること

	金額	内訳	
		差異の名称	金額
(1) 直接材料費差異	円 [ ]	( ) 差異	円 [ ]
		( ) 差異	円 [ ]
(2) 直接労務費差異	円 [ ]	( ) 差異	円 [ ]
		( ) 差異	円 [ ]
(3) 製造間接費差異	円 [ ]	( ) 差異	円 [ ]
		( ) 差異	円 [ ]
		( ) 差異	円 [ ]

# 標準原価差異の分析

●ポイント●

直接材料費差異・直接労務費差異の分析は、差異分析のボックスで面積計算、製造間接費差異についてはシュラッターの図で計算すること

仕掛品(直接材料費)		仕掛品(加工費)	
月初仕掛品 100コ 20,000	完成品 400コ 80,000	月初仕掛品 80コ 24,000 40,000	完成品 400コ 120,000 200,000
当月投入 500コ 100,000	月末仕掛品 200コ 40,000	当月投入 420コ 126,000 210,000	月末仕掛品 100コ 30,000 50,000

## 《問題》

製品Aを製造する当社は、標準原価計算を採用している。次の資料に基づいて、直接材料費差異、直接労務費差異、製造間接費差異の金額を計算し、さらに差異の原因別分析まで行いなさい。なお、製造間接費差異の原因別分析は3分法を採用しており、能率差異の計算は標準配賦率で行っている。

### 1. 生産データ

<換算量>

月初仕掛品	100コ (80%)	80コ
当月投入	500コ	420コ
合計	600コ	500コ
月末仕掛品	200コ (50%)	100コ
完成品	400コ	400コ

### 3. 実際原価に関するデータ

- ・直接材料費実際発生額: 132,000円 (実際単価@110円×実際消費量1,200kg)
- ・直接労務費実際発生額: 107,500円 (実際賃率@250円×実際直接作業時間430h)
- ・製造間接費実際発生額: 225,000円

### 4. 公式法変動予算に関するデータ

- ・変動費率:@200円
- ・月間固定費予算額: 135,000円
- ・月間基準操業度: 450h (直接作業時間)

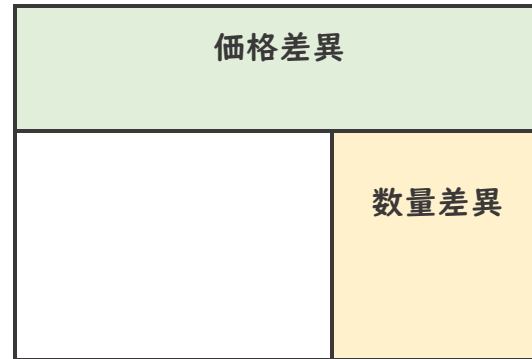
- ・( )内の数値は加工進捗度を示す。
- ・材料は、すべて工程の始点で投入している。

### 2. 製品A1コあたりの標準原価カード

標準原価カード			
標準直接材料費	標準単価 @100円	標準消費量 × 2kg	= 200円
標準直接労務費	標準賃率 @300円	標準直接作業時間 × 1h	= 300円
標準製造間接費	標準配賦率 @500円	標準直接作業時間 × 1h	= 500円
製品A1コあたりの標準原価			<u>1,000円</u>

実際単価

標準単価



標準消費量 実際消費量

### 【解答】

※[ ]には、借方差異の場合は借、貸方差異の場合は貸と記入すること

	金額	内訳	
(1) 直接材料費差異	円 [ ]	( ) 差異	円 [ ]
		( ) 差異	円 [ ]

# 標準原価差異の分析

## ●ポイント●

直接材料費差異・直接労務費差異の分析は、差異分析のボックスで面積計算、製造間接費差異についてはシュラッターの図で計算すること

### 《問題》

製品Aを製造する当社は、標準原価計算を採用している。次の資料に基づいて、直接材料費差異、直接労務費差異、製造間接費差異の金額を計算し、さらに差異の原因別分析まで行いなさい。なお、製造間接費差異の原因別分析は3分法を採用しており、能率差異の計算は標準配賦率で行っている。

仕掛品(直接材料費)		仕掛品(加工費)	
月初仕掛品 100コ 20,000	完成品 400コ 80,000	月初仕掛品 80コ 24,000 40,000	完成品 400コ 120,000 200,000
当月投入 500コ 100,000	月末仕掛品 200コ 40,000	当月投入 420コ 126,000 210,000	月末仕掛品 100コ 30,000 50,000

### 1. 生産データ

<換算量>

月初仕掛品	100コ (80%)	80コ
当月投入	500コ	420コ
合計	600コ	500コ
月末仕掛品	200コ (50%)	100コ
完成品	400コ	400コ

### 3. 実際原価に関するデータ

- ・直接材料費実際発生額: 132,000円 (実際単価@110円×実際消費量1,200kg)
- ・直接労務費実際発生額: 107,500円 (実際賃率@250円×実際直接作業時間430h)
- ・製造間接費実際発生額: 225,000円

### 4. 公式法変動予算に関するデータ

- ・変動費率:@200円
- ・月間固定費予算額: 135,000円
- ・月間基準操業度: 450h (直接作業時間)

- ・( )内の数値は加工進捗度を示す。
- ・材料は、すべて工程の始点で投入している。

### 2. 製品A1コあたりの標準原価カード

標準原価カード			
標準直接材料費	標準単価 @100円	標準消費量 × 2kg	= 200円
標準直接労務費	標準賃率 @300円	標準直接作業時間 × 1h	= 300円
標準製造間接費	標準配賦率 @500円	標準直接作業時間 × 1h	= 500円
製品A1コあたりの標準原価			<u>1,000円</u>

実際賃率

標準賃率



<賃率差異>

<時間差異>

標準直接作業時間 実際直接作業時間

### 【解答】

※[ ]には、借方差異の場合は借、貸方差異の場合は貸と記入すること

	金額	内訳	
(2) 直接労務費差異	円 [ ]	( ) 差異	円 [ ]
		( ) 差異	円 [ ]

# 標準原価差異の分析

## ●ポイント●

直接材料費差異・直接労務費差異の分析は、差異分析のボックスで面積計算、製造間接費差異についてはシュラッターの図で計算すること

仕掛品 (直接材料費)		仕掛品 (加工費)	
月初仕掛品 100コ 20,000	完成品 400コ 80,000	月初仕掛品 80コ 24,000 40,000	完成品 400コ 120,000 200,000
当月投入 500コ 100,000	月末仕掛品 200コ 40,000	当月投入 420コ 126,000 210,000	月末仕掛品 100コ 30,000 50,000

## 《問題》

製品Aを製造する当社は、標準原価計算を採用している。次の資料に基づいて、直接材料費差異、直接労務費差異、製造間接費差異の金額を計算し、さらに差異の原因別分析まで行いなさい。なお、製造間接費差異の原因別分析は3分法を採用しており、能率差異の計算は標準配賦率で行っている。

### 1. 生産データ

<換算量>

月初仕掛品	100コ (80%)	80コ
当月投入	500コ	420コ
合計	600コ	500コ
月末仕掛品	200コ (50%)	100コ
完成品	400コ	400コ

- ・( )内の数値は加工進捗度を示す。
- ・材料は、すべて工程の始点で投入している。

### 2. 製品A1コあたりの標準原価カード

標準原価カード			
標準直接材料費	標準単価 @100円	標準消費量 × 2kg	= 200円
標準直接労務費	標準賃率 @300円	標準直接作業時間 × 1h	= 300円
標準製造間接費	標準配賦率 @500円	標準直接作業時間 × 1h	= 500円
製品A1コあたりの標準原価			<u>1,000円</u>

### 3. 実際原価に関するデータ

- ・直接材料費実際発生額: 132,000円 (実際単価@110円×実際消費量1,200kg)
- ・直接労務費実際発生額: 107,500円 (実際賃率@250円×実際直接作業時間430h)
- ・製造間接費実際発生額: 225,000円

### 4. 公式法変動予算に関するデータ

- ・変動費率: @200円
- ・月間固定費予算額: 135,000円
- ・月間基準操業度: 450h (直接作業時間)

<予算差異>

<操業度差異>

<能率差異>

原価

操業度

【解答】 ※[ ]には、借方差異の場合は借、貸方差異の場合は貸と記入すること

	金額	内訳
(3) 製造間接費差異	円 [ ]	( ) 差異 円 [ ]
		( ) 差異 円 [ ]
		( ) 差異 円 [ ]

# 標準原価差異の分析

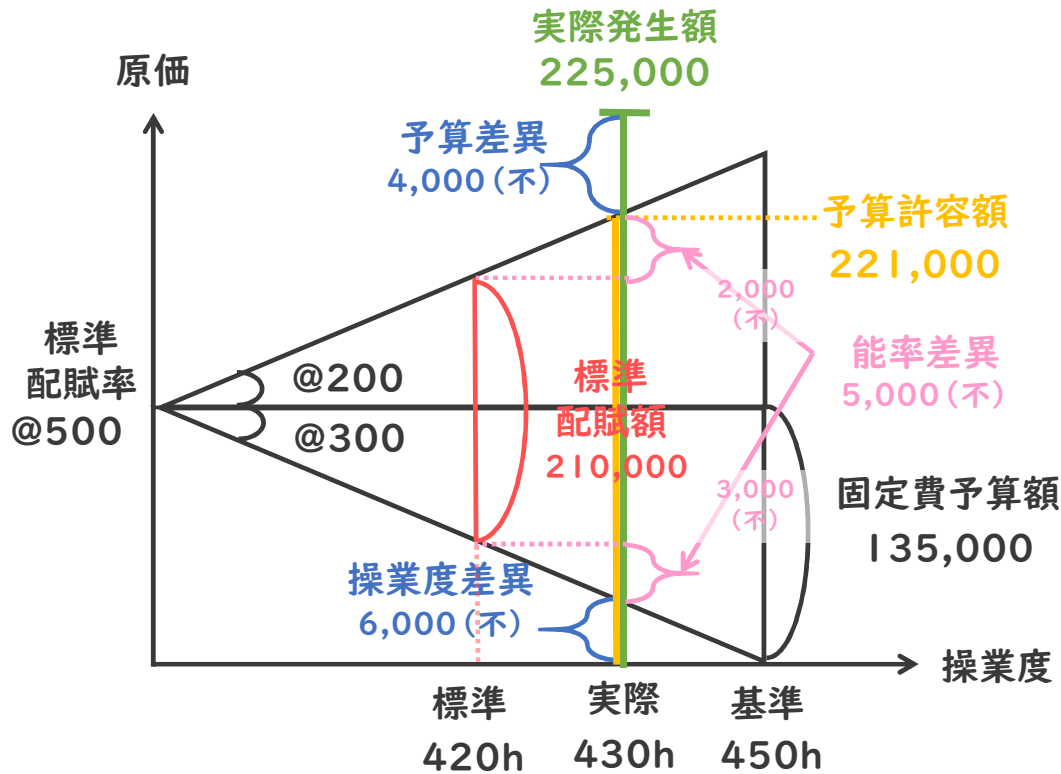
## <参考:分析方法のパターンについて>

### 《問題》

製品Aを製造する当社は、標準原価計算を採用している。次の資料に基づいて、直接材料費差異、直接労務費差異、製造間接費差異の金額を計算し、さらに差異の原因別分析まで行いなさい。なお、製造間接費差異の原因別分析は3分法を採用しており、能率差異の計算は標準配賦率で行っている。

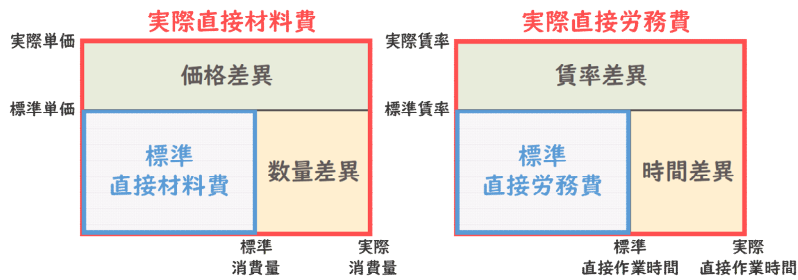
### ●参考●

問題によっては、「能率差異の計算は変動費率で行っている」などの場合もある。

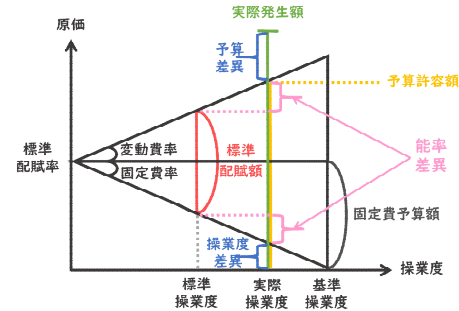


4分法	3分法①	3分法②	2分法
	予算差異 4,000円 (不利差異)		
	能率差異 5,000円 (不利差異)		
	操業度差異 6,000円 (不利差異)		





# 《まとめ》



4分法	3分法①	3分法②	2分法
予算差異 4,000円 (不利差異)	予算差異 4,000円 (不利差異)	予算差異 4,000円 (不利差異)	管理可能 差異 6,000円 (不利差異)
変動費 能率差異 2,000円 (不利差異)	能率差異 5,000円 (不利差異)	能率差異 2,000円 (不利差異)	
固定費 能率差異 3,000円 (不利差異)		操業度差異 9,000円 (不利差異)	管理不能 差異 9,000円 (不利差異)
操業度差異 6,000円 (不利差異)	操業度差異 6,000円 (不利差異)		

- 当月の標準原価と実際原価を比較して把握される標準原価差異は、さらに原因別に分析を行い、原価管理に役立てていく
- 各原価要素において把握される標準原価差異は下記のとおりである。

直接材料費差異 → ( ) 差異・( ) 差異 ※差異分析のボックスを用いて計算すること

直接労務費差異 → ( ) 差異・( ) 差異 ※差異分析のボックスを用いて計算すること

製造間接費差異 → ( ) 差異・( ) 差異・( ) 差異

※シュラッターの図を用いて計算すること



※この回の動画が「いいな♪」「役に立ったな♪」と思ったら、ぜひ、高評価をお願いします♡

第25回の内容お疲れさまでした♪ 